

【事業報告】

一般社団法人 日本インダストリアルイメージング協会
第 18 期（2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで）事業報告の件

第 18 期の事業概況

2025 年 6 月 18 日に東京都港区芝公園 3 丁目 5-8 機械振興会館 6 D-3 会議室に於いて、定時社員総会を開催し、一般社団法人としての第 17 期の事業報告他、以下の決議事項が全会一致で可決されました。

報告事項	第 17 期の事業報告
第 1 号議案	第 17 期決算報告書承認の件
第 2 号議案	定款変更の件
第 3 号議案	理事改選の件
第 4 号議案	監事改選の件
第 5 号議案	第 18 期事業計画案及び予算案承認の件

この決議に基づき以下の活動を行いました。

1. 2025 年度の活動総括

2025 年度は、ウクライナおよび中東情勢の長期化に象徴される地政学リスクの常態化、国際経済における構造的なブロック化の進行など、不確実性の高い外部環境が継続する一年となりました。直近においてもイラク情勢を発信源とした不確実性が広がる一方 AI、ロボティックがけん引する株価の高騰など様々な要因が複雑に絡み合う予測の難しい状況が続いています。国内においても、自然災害への備えや社会インフラのレジリエンス強化が継続的な課題として意識され、企業活動においては、短期的なリスク対応と中長期的な成長戦略を同時に求められる局面が続きました。

マシビジョンマーケットにおいては、半導体関連事業における需要の振れ幅の大きさや設備投資環境の不透明感を背景に、従来型の延長線上では見通しを描きにくい状況が続きました。一方で、自動化・省人化、品質保証の高度化、データ活用を起点とした新たな価値創出に対する期待は着実に高まりつつあり、本年度はそうした変化を次の成長機会へと転換するための基盤づくりが重要なテーマとなりました。

また、将来の持続的発展を支える人材の確保および育成、とりわけ次世代を担う技術・企画人材の育成が、業界全体の競争力を左右する重要課題として改めて共有された年でもありました。JIIA の活動においても、理事会・各委員会・分科会の活動をより実効性の高いものとするため、企画力・発信力の強化や、会員参加型の運営を支える事務局機能の重要性を再認識する契機となりました。

こうした環境認識のもと、JIIA としては、会員への迅速かつ的確な情報発信、会員相互の知見を結び付ける交流機会の創出、ならびに国際規格動向を見据えた標準化推進活動を通じ、次年度以降の発展につながる活動基盤の強化に取り組みしました。本年度は、守りのリスク対応に留まらず、変化を機会と捉え、次の成長に向けた「攻

め」の姿勢を具体的な取り組みとして形にし始めた一年であったと総括いたします。

事務局機能の拡充は、会員、協力団体、一般への情報発信とサポートを拡充してきており、様々なイベント後の交流活動の裾野の広がりを通じより実地的な活動の実現につながっています。このような活動と共に今後は技術情報の丁寧な発信も重要な会員サービスであり、今後の活動の柱の一つになると考えられております。

JIIA 活動の核心たる標準化は標準化委員会、国際規格推進委員会が担当し多くの課題に対応してきております。

標準化としては 4 月にカナダ/ケベックでの IVSM（ International Vision Standards Meeting ）に参加 10 月の中国での IVSM には 2 名を派遣し、コネクタ&ケーブル認証制度のガイドライン、小型光コネクタの開発、LensConnect の推進など新たなテーマを紹介しました。また、技術者交流を目的として、分科会集中審議 JISM を東京、名古屋で開催しました。

国際規格推進委員会は数度の ITU-T 会合に日本団の一員として参加し、特に 10 月ジュネーブでの SG21 本会合には JIIA から日本国寄書として「Framework and requirements of industrial machine vision」を提案し New work item として勧告案審議を認められ、2027 年の勧告化を目標としています。

標準化普及活動としては、国内では 6 月画像センシング展、12 月国際画像機器展の後援を継続し、International Machine Vision Standards Booth での標準化技術の動展示、また他団体連携に関するパネル展示、及び各種 JIIA セミナーの開催を実施致しました。

一方海外では 5 月にアメリカ・シカゴで開催された Automate 展に 1 名派遣し、G3 標準に関するセミナーの実施と、International Machine Vision Standards Booth での規格展示を行っております。

海外標準化協会との協業としては年 2 回の IVSM や G3 会合で意見交換を行い、情報共有を図っています。

また、JIIA 主催の国内技術セミナーもハイブリットで開催。アソシエイトデベロップメント委員会と標準化委員会が協力し、技術セミナーを 2 回開催し、会員各位のご参加を頂く事ができ盛況裡に終了しております。

また他団体との連携活動として、JAISA（日本自動認識協会）、日本ロボットシステムインテグレータ協会（JARSIA）での画像処理セミナーなどを通じての知見の共有などが実現しております。

活動の成果と今後の課題については、アソシエイトデベロップメント委員会、標準化委員会、国際規格推進委員会の順でそれぞれ詳しくご報告します。

2. 2025 年度アソシエイトデベロップメント委員会活動報告

JIIA 設立の目的の一つであり、活動の基本である日本の Machine Vision 業界に貢献し、Machine Vision 業界に関わる企業、団体との交流を活性化させようと、2025 年度からアソシエイトデベロップメント委員会を立上げ、JIIA 会員に向けたイベント開催や他団体との交流、親交を深めてきました。

特に Vision のニーズが高まっているロボットシステムに対し、ロボット革命・産業 IoT イニシアチブ協議会

（RRI）との連携活動を進め、RRI 会員と JIIA 会員の双方のロボットシステムに関するテーマを元に 1 年間にわたり、RRI/WG2 の主要メンバーと JIIA 理事が定期的にミーティングを行い、今後の「ロボットとビジョン」において何が必要とされるのかを議論しました。

その中で、現在、RRI とロボット機器に対するマシンビジョンシステムの利活用について協議を進めています。

そして同協会が新たに進める「プラットフォーム実装検討 SWG（仮称）」に JIIA も正式に参画することになりました。

また、RRI との活動の中で日本ロボットシステムインテグレータ協会（JARSIA）とも、ロボットを制御する SIer としてビジョンの技術、知識を JARSIA 会員に知って頂き、活用して頂きたいと思い、連携活動を進めております。

2025 年度はマシンビジョンにとって、古くて新しいマーケットであるロボットシステムに、本格的に取り組み始めた年でありました。

2025 年度の活動の反省としては、昨年度と同様に JIIA 会員向けの技術セミナーや、イベントをあまり開催することが出来なかったことです。

2026 年度は JIIA 会員向け技術セミナーや、イベントを準備し、如何に多くの JIIA 会員にご参画頂けるかが、今後の課題となります。

■ 2025 年度の主な活動とイベント

10 月：日本自動認識システム協会（JAISA）

10 月 16 日（木） 場所：JAISA 参加者：JAISA およびオンライン会議
画像処理セミナーを実施。画像処理業界情報と画像処理基礎知識について講演。

11 月：MECHATROLINK 協会

11 月 19 日（水）～21 日（金） 場所：東京ビッグサイト
オートメーションと計測の先端技術総合展「IIFES2025」の MECHATROLINK 協会ブースにおいて、JIIA との協業活動パネルを展示いたしました。

12 月：国際画像機器展（12/3～12/5）

12 月 3 日（水）～05 日（金） 場所：パシフィコ横浜 D ホール
セミナーにて「アソシエイツデベロップメント委員会の活動」について講演を実施。

12 月：日本ロボットシステムインテグレータ協会（JARSIA）

12 月 20 日（土） 場所：機械振興会館 B2 ホール
JARSIA 主催の「ロボットアイデア甲子園 2025」の審査員として参加。
高校生・高専生・専門学校生などを対象に、産業用ロボットを見学し学んでもらう
「ロボットって何？ セミナー＆見学会」及び、産業用ロボットの新たな使用方法を考案する競技会。

2 月：日本ロボットシステムインテグレータ協会（JARSIA）

2 月 13 日（金） 場所：ビジョンセンター横浜みなとみらい
【SIer's Day in 富士・相模（横浜みなとみらい）】で画像処理セミナー

【産業用画像処理の概要】

Machine Vision 業界のグローバル化と最新の技術トレンドについて

ロボット導入に興味がある地域のユーザー企業へ向けて、地域 SIer により、ロボット導入をはじめとする、自動化の事例紹介を実施するなど、地域のロボット活用を推進しています。

3. 2025 年度標準化委員会活動報告

標準化委員会に技術仕様ごとの分科会（Working Group）を設置し、標準化作業を行っています。
昨年度は下記の展示会／セミナー／規格化を各分科会において行いました。

■ 展示会、セミナー等における普及活動

4 月：IVSM 春（Quebec A3 主催）（4/28～5/2）

JIIA として 4 名（自社派遣 1 名を含む）が参加

- ・規格アップデートを紹介
- ・CoaXPress の PlugFest を主催

6 月：画像センシング展（パシフィコ横浜）（6/11～13）

International Machine Vision Standards Booth での規格展示および JIIA セミナーを実施

- ・ 規格展示：
 - 動展示： CoaXPress、SLVS-EC
A3 による GigEV3.0 関連の動展示をおこなった
 - 静展示： 全ての G3 規格を A4 カードで紹介する展示を行い、紹介の音声付パワポを動展示した
 - パネル展示： 各規格ソリューション紹介パネル、他団体連携活動パネル
 - 配布： 各種分科会フライヤ、JIIA 活動紹介フライヤ、光学用語集（レンズ分科会）
- ・ JIIA セミナー：
 - 「Machine Vision はさらなる未来に進んでいく
～JIIA が切り拓くインターフェース技術と新たな挑戦～」

9 月：JVSM 秋（JIIA's Vision Standards Meeting, 機械振興会館）（9/17～19）

標準化委員会の分科会を対面とオンラインのハイブリッドにより 3 日間で集中的に開催

- ・ 7 つの分科会、以下、2 つの特別セミナーを開催
 - ・サイバーレジリエンス法について
 - ・Valens 社-Aphy と Microchip 社-最新チップに関する講演

10 月：IVSM 秋（Haiko CMVU 主催）（11/3～7）

JIIA として 4 名が参加

JIIA 主管分科会の活動状況、規格アップデートを紹介

- ・ CoaxPress の PlugFest を主催

12月：国際画像機器展（パシフィコ横浜）（12/3～5）

International Machine Vision Standards Booth での規格展示および JIIA セミナーを実施

- ・ 規格展示：
 - 動展示： CoaXPress、SLVS-EC
- ・ 静展示： 全ての G3 規格を A4 カードで紹介する展示を行い、紹介の音声付パワポを動展示した
パネル展示： 各規格ソリューション紹介パネル、他団体連携活動パネル
- ・ 配布： 各種分科会フライヤ、JIIA 活動紹介フライヤ、光学用語集（レンズ分科会）
- ・ JIIA セミナー：
 - ① Machine Vision インターフェース規格の標準化がもたらすもの
 - －不確実で不透明な産業界の未来に向けて進化し続ける JIIA の取り組み－
 - ② JIIA が目指すマシンビジョン規格の業界規格から国際規格へ向けた取組み
マシンビジョンシステムとしてのアソシエイト活動
 - ③ 映像検査装置も対象になる！？ 欧州サイバーレジリエンス法の概要と対応策

2月：JVSM 春（JIIA's Vision Standards Meeting, イールーム名古屋駅前 D）（2026/2/19～20）

標準化委員会の分科会を対面とオンラインのハイブリッドにより二日間で集中的に開催

■ G3 規格化会議

4月：IVSM 春（Quebec A3 主催）（4/28～5/2）

10月：IVSM 秋（Haiko CMVU 主催）（11/3～7）

■ デジュール国際標準化会議

6月：ISO ベルリン会議（Online）（6/23～27）

10月：ISO クパチーノ会議（1 名を派遣）（10/14～17）

2026 年 2 月：ISO 東京会議（対面）（2026/2/24～27）

- ・ EMVA1288 の ISO 化への取組み

■ マシンビジョン普及活動

画像センシング展、国際画像機器展の公開セミナーだけでなく、会員限定の JVSM（JIIA's Vision Standards Meeting）セミナーを実施し、マシンビジョンの普及活動に取り組みました。

今後は、標準化委員会全体として、いかに活動の軸を標準化作業からさらなる普及活動に移行していくかを課題として取り組んでいきます。

■ 分科会活動**(1) CoaXPress 分科会**

- ・ Version3.0 では同軸ケーブルでの CXP-25 以上の速度の開発と光インターフェースの統合を行っています。コネクタの評価と光インターフェース用の小型コネクタの検討を他団体規格と連携し議論を行います。
- ・ 相互接続試験において Validation Frame Work 試験を必須とし、運用を開始しました。

- ・ 電気適合試験（ECT）を計 4 回主催し 62 製品の測定を実施、Plugfest を 4 回主催し 54 製品の試験を行いました。
- ・ 電気適合試験設備のメンテナンスを実施し継続的な試験、認証体制の見直しを行っています。
- ・ 展示会等での技術デモ、SLVS-EC とのコラボ展示を行い、規格の理解と普及の推進を行いました。

(2) USB3 Vision 分科会

- ・ A3 USB3 Vision Technical Committee のフォローアップを定期的実施しています。
- ・ JIIA 内での議論はなく、情報提供のみで分科会活動は休止しています。

(3) Camera Link 分科会

- ・ JIIA 内での議論はなく、情報提供のみで分科会活動は休止しています。

(4) GigE Vision 分科会

- ・ JIIA 内での議論はなく、情報提供のみで分科会活動は休止しています。

(5) 光伝送メディア分科会

- ・ 2025 年 2 月に分科会を再開しました。
- ・ JIIA OTM-001-2018 の見直しをメンバーで行い、改訂内容を決定しました。新しい内容の追加は行わず記述ミスの訂正のみになります。

(6) Embedded Vision I/F 分科会

- ・ 国内では画像センシング展、及び、国際画像機器展、海外では Automate, Vision China 上海において、SLVS-EC の動展示や長距離伝送に向けたコネクタケーブルの静展示等を行いました。

(7) コネクタ&ケーブル認証制度分科会

- ・ 2025 年 8-9 月にかけてリリースしたガイドラインをもとにロボットメーカー、実装機メーカーのエンドユーザー 2 社に対し打合せ報告を行い了承いただきました。
- ・ 併せて今後、必要のガイドラインについての確認を行い、GigE の要望を受けています。

(8) IIDC2 分科会

- ・ Version1.3.0 の策定を行っています。
- ・ レンズ分科会にて発足したレンズ機能遠隔操作技術の標準化を目指す「LensConnect 作業部会」に参画し、レンズ制御を行う OpticControl の策定を開始しました。

(9) GenICam 分科会

- ・ JIIA 内での議論はなく、情報提供のみで分科会活動は休止しています。

(10) カメラ仕様分科会

- ・ EMVA1288 の ISO 化に向けて JIIA における取り組み体制を整え、ISO の国内協議会、国際会議に参

加し国際標準化を支援しました。

- ・ AEON 社 EMVA1288 準拠計測器 ACC のオンサイトデモを開催しました。

(11) 照明分科会

- ・ 現行の規格書の改定作業を進めました。各種ドキュメント（規格書およびガイドライン）の認知度を向上しグローバルにも展開し市場にて活用されることを目指しています。
- ・ あらたに『BRDF』の検討を始めました。CG 系では必須の指標であり、ワークの表面状態を表す指標となり、目視検査など自動化し辛い領域での活用に期待ができます。

(12) レンズ分科会

- ・ 例年実施しているレンズ分科会制定規格の定期見直し作業は、該当する規格がありませんでした。
- ・ レンズ機能遠隔制御技術の標準化を目的とした「LensConnect 作業部会」が発足し、規格化作業を進めています。

(13) 高忠実色再現分科会

- ・ 分科会は存続していますが主査が不在で、標準化委員会で維持管理することとなっています。
- ・ 新たな議論はなく、分科会活動は休止しています。

(14) 次世代 Vision ネットワーク準備部会（NVNET）

- ・ 現行のガイドラインに、準備部会の設立当初からの懸案事項であるカメラのパラメータを制御するコマンドを設ける検討を行いました。ネットワーク基盤が整備され、接続する各種デバイスが整い、上位レイヤまで一貫して接続する環境も整備されてきた現況を踏まえて検討を始めましたが、活用シーンが見通し難しい状況により、活動を休止しています。

4. 2025 年度国際規格推進委員会活動報告

2025 年度の国際規格推進委員会（Global Standardization Advancement Committee、GSAC）の活動は、2024 年度に引き続き国際電気通信連合電気通信標準化部門（International Telecommunication Union Telecommunication Standardization Sector、ITU-T）の Associates 会員、及び一般社団法人情報通信技術委員会（The Telecommunication Technology Committee、TTC）の会員として ITU-T における標準化活動を中心に次の活動を実施しました。

■ ITU-T、及び TTC への参画

2024 年度同様、ITU-T の Associates 会員、及び TTC のマルチメディア応用専門委員会 マシンビジョン Sub Working Group（TTC マシンビジョン-SWG）のメンバーとして、ITU-T での「寄書」、及び「勧告案」（国際標準の草案）の対応に注力しました。本年度は JIIA から日本国寄書として「Framework and requirements of industrial machine vision」を提案し New work item として勧告案審議を認められ、2027 年勧告化目指し活動をおこなっています。また 1 月の SG21 本会合では Q7 に提出された「ビジョンベースの

マルチロボットコラボレーションシステムの要件とフレームワーク」に関する寄書の修正提案が認められました。

また ITU-T で発行される国際標準（「勧告」と呼ぶ）の寄書・勧告案について、マシンビジョンに関連するものを調査分析し、改善の必要がある場合は会合でのコメント、或は JIIA 自ら改善案を記した寄書の作成によって、寄書・勧告案の適正化改善を実施しました。

なお、ITU-T では、2025 年 1 月から 2028 年 12 月までが新しい研究期間（Study Period 2025-2028）となりました。JIIA の所属する研究委員会は第 21 研究委員会（SG21）となり、1 回の本会合、4 回の専門家会合（Rapporteur Group Meeting、RGM）に JIIA は参加しました。

6 月：課題 5（Question 5、Q5）の RGM（6/3-6/4）

Web 開催→ Web 4 名参加

6 月：課題 7（Question 7、Q7）の RGM（6/17-6/19）

Web 開催 → Web 4 名参加

8 月：課題 5（Question 5、Q5）の RGM（8/5-8/8）

Web 開催 → JIIA から Web 4 名参加

10 月：ITU-T SG21 本会合（10/6-10/17）

スイス ジュネーブ（現地+Web 開催） JIIA から現地 2 名、Web 3 名参加

3 月：課題 7（Question 7、Q7）の RGM（3/21-3/24）

Web 開催→ JIIA から、Web 4 名参加

本年度は、次の 9 回の TTC の会合に JIIA は参加しました。

5 月：第 37 回 TTC マシンビジョン-SWG（5/26）

6 月：第 38 回 TTC マシンビジョン-SWG（6/19）

7 月：第 39 回 TTC マシンビジョン-SWG（7/9）

8 月：第 40 回 TTC マシンビジョン-SWG（8/22）

9 月：第 16 回 TTC マルチメディア応用専門委員会（9/5）

9 月：第 41 回 TTC マシンビジョン-SWG（9/29）

11 月：第 42 回 TTC マシンビジョン-SWG（11/28）

1月：第193回 TTC 規格戦略委員会（1/19）

2月：第43回 TTC マシンビジョン-SWG（2/27）

■ **広報・普及活動**

6月の画像センシング展および12月の国際画像機器展ではITU-Tの最新の活動状況についてのセミナーを実施、更にJIIAメルマガにてそれぞれのセミナーの案内を発信しました。

6月：画像センシング展セミナー（6/12）

「Machine Vision はさらなる未来に進んでいく
～JIIAが切り拓くインターフェース技術と新たな挑戦～」

12月：画像機器展セミナー（12/4）

「JIIAが目指すマシンビジョン規格の業界規格から国際規格へ向けた取組み
マシンビジョンシステムとしてのアソシエイト活動」

あ

■ **その他**

現在マシンビジョン関連の寄書、勧告草案は、WTSA-24でITU-T SG21のQ7での取扱となったため、Q7に集まっていますが、他のQやSGでの議論を継続する方針のものもあり、引続きITU-T SG21 Q7以外の寄書の調査、及びQ7での取扱推進の活動を進めていきます。

以上の通り、2025年度の活動実績を報告します。